

第36回

うつのみやこども賞だより

令和元年度 5回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『天使のにもつ』

いとうみく／著 丹下京子／絵（童心社）



令和元年10月6日

うつのみやとしょかん
Utsunomiya city library

～読んだ本の感想より～

- 身近な話題というのが分かりやすい。
- 最初はなんとなく保育士の体験に入った主人公が、体験を通して成長していくことがよかった。
- おもしろかった。私自身もインターンシップに行ったことがあるし、5歳のいとこもいるので、共感できる部分も多かった。
- 私は、この前職場体験に行ったので、年はちがうけど共感できるところがたくさんありました。私が行った場所は幼稚園なので、この本と場所はちがうけど、小さい子がいるところなので、楽しく読むことができました。
- 幼稚園を思い出して、なつかしくなりました。保育士達の言葉に、感動と共感をしました。面白い場面と感動する場面の割合がちょうど良かったです。

『夕焼け色のわすれもの』

たかのけんいち／著（講談社）

- 主人公のしょうたが昔の世界にまよいこんでしまったことが、ふしぎでおもしろかった。
- 少しシリアスな話だけれど、とてもおもしろい話の構成だと思う。なぞの1つ1つがつながっていて、あきることなく読み進められた。
- 昔の世界・本の世界の中に入る、それも夕焼けの時間だけという設定がおもしろかった。このタイムスリップ？で友情がはぐくまれていくところも見どころの1つで、私にとっては、あと味がスッキリしたポイント。
- たしかに団地の夕焼けはちょっと不気味だと思った。おじいちゃんを書いた本が、本当になっているところがおもしろかった。

『おれんち、動物病院』

山口理／著（文研出版）

- 動物の命についてよく分かる本なので、ぜひ読んでもらいたい。
- 私は動物が大好きなので、主人公の最初の方の気持ちが理解できなかった。でも、いいお話でした。動物の大切さがわかった。
- だんだん動物のことがわかってくるようになった勇希に感動したし、動物の命を必死で守ろうとするのも伝わってきた。
- とても感動した。私も猫（×2）を飼っているのから、けっこう読みやすかった。勇希にイライラしたけど、最後、お父さんのすばらしさに気づいた時は、泣きそうになった。動物病院のよさに改めて感動した。動物好きな私には、たまらん物語！
- 表しはそこまで好きじゃないけど、本自体はすごくおもしろくて読みやすかった。主人公の勇希がいろんな事を考えていておもしろかった。

『君型迷宮図』

久米絵美里／著（朝日学生新聞社）

- 登場人物が個性的で読みやすかったです。
- めっちゃくちゃ面白かった。サノとかの正体が脳だったとき、すごいびっくりした。公が成長できてよかったと思った。
- サノがイチにきりかかった所がハラハラした。「ウノ！」と呼んだ時は、どういう事なのか分からなくて混乱したけど、脳の事だと分かって面白かった。
- 終わり方が好きです。サノ達が脳の一部という事を知り、そう来たか！と思いました。絵もかわいくて、字も読みやすくスラスラ読めました。
- 最初、事故からはじまるのがとってもびっくりした。サノがイチにきりかかったところがどうなるのか！？と思ってドキドキした。